



人と未来、タイで感じ得たもの

田中 琉惺

タイという見知らぬ国で過ごした1週間、その中で自分の心に深く刻まれたのは、多くの「人」との関わりである。まず、一緒に研修を過ごした仲間。様々な道を志し、歩を進める同世代の仲間との語り合いは、自分にとってとても大きな刺激となった。タイの高校生との交流では、言語が満足には通じない中でも心を通わせ、友達になれる喜びを知った。また、多様な経歴を持ちながら、多様な方面で活動されている JICA の職員の方々やタイの人々に関わったことも、自分の将来に向けての大きな財産になった。

そして、僕がタイで感じた、もう一つの大切な要素、それは「未来」だ。自分はまだ将来の夢が決まっておらず、それに対して漠然とした不安があった。しかしこの研修で、普通に過ごしていたら絶対に会うことができなかつたであろうたくさんの人と、関わり、語ることで、自分の未来への見通しが大きく広がった。そして、今回の研修を通じ、タイの各所にも「未来」への可能性を感じた。障害者支援の拠点、APCD は、インクルーシブな社会を目指して進化し続けている。バンコク名物の渋滞を解消するための鉄道は、これから延伸を続けることで、大きな成果を上げていくだろう。街中のあちこちにそびえるクレーンも、この街がどんどん変わっていることの証左だ。「いつかこの国の未来を、成長した自分で見に来よう」空港まで見送りに来てくれたタイの高校生に手を振りながら、僕はそう決意した。